

核兵器のない世界へ - 今こそ飛躍を！

ヒロシマから、2010年ニューヨークへ

今、核兵器廃絶のため世界的な潮流が動き出しているなかで、10月17日から20日まで、「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会（ICNND）第4回会合」が、広島で開催されました。

ICNND 日本 NGO 市民連絡会、広島実行委員会では、この機会をとらえ、ヒロシマから世界に向かって核なき世界を実現していくために、さまざまな取り組みを行いました。（以下に詳細）

ICNND の第4回会合は20日に終了しました。そこで合意された内容は、2012年までに核兵器保有国が核兵器の目的を抑止に限定すると宣言 2025年までに先制不使用宣言をし、核弾頭を全世界で必要最小限まで削減することを求めるものでした。

核廃絶の具体化を求めている NGO 市民連絡会、広島実行委員会としては、2020年までに核兵器禁止条約の発効など核兵器のない世界の実現を求めているだけに落胆と批判の声が多く出されています。森瀧共同代表は『広島に来たことが生かし切れず、2012年までに核兵器を半減する方針を打ち出した米国が、年末に核戦略の基本文書「核態勢見直し」（NPR）を更新する予定だけに、ICNNDの報告は時代遅れになる可能性がある』と批判しています。

ICNND の合意は、流れに逆行するものでしたが、今回全国の平和団体が協力して、多様な取り組みを行ったことは大きな意義があり、2010年のNPT再検討会議に向けて、さらに活動を発展させる必要があります。

ICNND 日本 NGO 市民連絡会は、ICNND が、世界が核廃絶への道筋を着実に歩んでゆくための提言を生み出すことを願い、市民社会からの参画と協力を拡大することを目的に2009年1月25日、東京で発足しました。被団協やピースボートなど多くの平和団体が参加しています。広島からは核兵器廃絶をめざすヒロシマの会が参加しています。また広島実行委員会は10月の広島行動成功に向けて、核兵器廃絶をめざすヒロシマの会が広島の平和団体、個人に呼びかけて9月17日に発足しました。広島県生協連は核兵器廃絶をめざすヒロシマの会の事務局として、また広島実行委員会にも組織として参加しました。生協関係では生協ひろしま、広島医療生協が賛同団体として参画しています。

主催：ICNND 日本 NGO・市民連絡会・広島実行委員会

共催：（財）広島市平和文化センター

ICNND国際委員とNGO側のラウンドテーブル（意見交換会）

10月16日（金）にICNND国際委員とNGO側の意見交換会がリーガロイヤルホテル広島で開催されました。事前発表された最終報告の骨子について、NGO側からは失望の意見を述べ、被爆者が生きている内に核兵器のない世界を実現する、市民社会の求めてきたこととあまりにかけ離れていると述べました。ICNND国際委員からは現実的なアプローチで骨子が出てきたことを主張し、NGO側からは現実的であるのは市民社会であると強く主張しました。残念ながら時間が短く十分な議論ができませんでした。



手前はICNND委員、向かい側がNGOのメンバー



ICNND NGO コーディネーターの二人
をはさんで
秋葉広島市長と田上長崎市長



ラウンドテーブル前の事前説明会の様子

キャンドル・メッセージ

「NUCLEAR FREE NOW!」(核なき世界を)

日時：10月17日(土) 17:30 ~ 19:30

場所：原爆ドーム前広場

ひとりひとりの「核なき世界へ」の思いを、1,000本のキャンドルで、「NUCLEAR FREE NOW!」と描き出し世界へ届けました。



キャンドル・メッセージに集まった人たち



下書きされた文字の上にキャンドルを並べていきます。



ICNNDのメンバーが私たちの呼びかけに応じ、バスから降りてくれました。エバンズ、川口両議長からメッセージをいただきました。核廃絶の思いを込めてバスを見送りました。



在外被爆者、諸外国、日本の平和運動家など多くの方にメッセージをいただきました。写真はリーパーさん(広島平和文化センター理事長)。



完成したキャンドル・メッセージ。参加者も一緒に世界に発信します。

国際シンポジウム

核兵器のない世界へ - 今こそ飛躍を！

～ヒロシマから、2010年ニューヨークへ～

日時：10月18日（日） 14:00～17:00

場所：世界平和記念聖堂

<パネリスト>

レベッカ・ジョンソン （英国アクロニム研究所所長）

ティルマン・ラフ （ICNND NGO アドバイザー）

田中熙巳 （連絡会共同代表、日本被団協事務局長）

川崎哲 （ICNND NGO アドバイザー）

<コーディネーター>

森瀧春子 （連絡会共同代表、HANNWA 共同代表）



平和の象徴的場所である世界記念聖堂に300人の市民が集まりシンポジウムは開会しました。パネリストからは、核戦争が起きた際の危険性の指摘や被爆者として「2度とこんなひどい体験を誰にも味わせたくない」「核の傘が（国を）戦争から守るものではないことは、イラクなどを見ればわかる」などの発言があり、核兵器非合法化する包括的で検証可能な核兵器禁止条約が必要であることが主張されました。また質問に答えて、北朝鮮の核の脅威の問題については核兵器をつくる動機を解消する必要があること、核兵器は廃絶できない、核抑止力を信じている人に対して、人類が核兵器を持ちながら未来を保証されるのは非現実的であり、国家が核兵器に固執するのは政治的問題で、核兵器を非合法化する取り組みを広げることが大切であると答えました。

最後に国際社会、ICNND、日本政府、日本の市民社会に対して核兵器廃絶のメッセージを発信する決議案を採択してシンポジウムを終了しました。



秋葉広島市長



コーディネーターの森瀧さんが発言
壇上のパネリスト



会場内の様子



ティルマン・ラフさん



田中熙巳さん



レベッカ・ジョンソンさん



川崎哲さん



司会の田中さん



大会宣言を読み上げる
広島実行委員会委員長 青木さん



素晴らしい通訳でした。
同時通訳のお二人



受付をした広島実行委員
会のメンバー